

## 「小さな親切」小学生ポスターコンクール審査評

広島市教育委員会学校教育部指導第一課

指導主事 梅田 大造

今年度も、「小さな親切」小学生ポスターコンクールに、1076点もの応募がありました。各学校においては、家庭や地域と連携を図り、様々な人との関わりや多様な体験活動等を取り入れながら、子どもたちが成長する機会となるよう、教育活動を展開しています。

作品を拝見しますと、子どもたちが「小さな親切」について、一生懸命に考え、自分にできることを、熱心に描いていることが伝わってきました。「どうしたの?」「大丈夫?」「ありがとう」などの言葉を交わし合い、日常の中で経験した人とのあたたかいつながりの中で相手を思う気持ちを表している作品が多くありました。特に、自分の生活体験の中から場面をとらえて描いた作品からは、子ども一人一人の喜びや思いが強く伝わってきました。人とつながる体験の中で感じた優しい気持ちについて描かれた作品からは、子どもたちのうれしかった気持ちや安心した気持ちが感じられるとともに、「見て見て!」「聞いて聞いて!」という子どもたちの声が聞こえてくるように感じました。審査をしながら、あたたかい関わりを大切にし、身の回りの世界とつながっていこうとする子どもたちの思いに触れることができました。

表現についても、それぞれの学年に応じて、画材の特質や、それらを扱った経験を生かしている作品が多く見られました。自らの思う「小さな親切」を表現するために、水彩絵の具・パス・色鉛筆・コンテ・ペンなどを選択したり、組み合わせたりするなど、表現方法を工夫した作品がたくさんありました。高学年では、描画材料を効果的に選択し、意図やねらいをもって構図や色遣いを工夫している作品が多くありました。どれも自分の思いやメッセージを伝えようと工夫し、こだわった力作ばかりでした。今後も、本コンクールに、子どもたちが実体験を通して感じたことを子どもたちなりに表現した作品がたくさん届くことを期待しています。

最後に、子どもたちが身近な「小さな親切」に改めて気付いたり、自分の行動を振り返ったりする機会をつくってくださった本コンクールの関係者の皆様に感謝申し上げます。そして、子どもたちが「小さな親切」から人とつながるようなあたたかい関わりを大切にし、優しさと笑顔があふれる社会を築いていくことを願っています。